

委員会だより

<6月3日(土) 12名出席>

【1】財務報告：00年5月度決算報告()内:00年度年間予算

	00°収入累計	00°支出累計	収支差額
一般会計	3,182,240 (6,257,868)	2,441,410 (6,157,868)	740,830 (100,000)
建設会計	3,028,650 (3,356,956)	400,390 (2,795,000)	2,628,260 (561,956)
愛の献金	500,727 (780,065)	127,461 (320,000)	373,266 (460,065)
信徒預金	119,375 (619,375)	0 (440,000)	119,375 (179,375)

▶特記事項：◆一般会計：ミサ謝礼 ¥90,000(上原、鶴飼両神父様) 聖書と典礼 ¥46,477 賄い謝礼 ¥59,800(23日間分) 質問：教区から神父様謝礼の補助は出ないのか？ ⇒「なるべく教会自身で出して欲しい」というのが教区(林神父様)の意向。
◆建設会計：神父様ベッド購入 ¥191,025 (注：今回の改装費、ベッド代は神父様の特別献金 ¥600,000(@2月)を使わせて頂いた形となった。)

【2】議題：

◎山崎神父様の病状報告：

- ◆最終的診断は脳梗塞。林神父様、弟様、花坂さん、阿部さんで医師から5/29に話を聞いた。
- ◆治療すべき欠陥はなく、リハビリと薬を飲むだけ。
- ◆次回の再発が怖い。身の回りは自分で出来るが、完全に元の状態に復帰することは難しいし時間が効かる。
- ◆糖尿の方もよくなっているし、言葉も大丈夫。

◎身の回りのお世話

- ◆昼：食事のお世話の段取りはいままで通り。委員会の総意として、日常のお世話は位田さんを中心とした4.5名の方々のご協力を、例会でお願いする。別途、必要な経費支払い含め書面で明確にしてお願いする。
- ◆夜：特に無し。
- ◆歩行器については位田さんが調べる。(車椅子は駄目)
- ◆緊急連絡手段：別途検討(福祉事務所等の援助も検討)
- ◆泣き部屋の神父様居室への改造状況：
◆既にほとんど出来ており、あとはドアを付けたり、ヒーターを戻すのみ。工事代は約¥400,000。

- ◆その他、浴室の改善(入口の段差、シャワーコックの改善)、トイレ段差の改善が必要。別途、見積りをもって検討する。福祉事務所にも相談してみる。

- ◆司教館の林神父様が中和田教会を視察されており、後日改善勧告があるとの由。(補助金の可能性も?)

- ◆介護保険の申請：検討する。(難しいこと予想される)

- ◆6月以降のごミサ：下記で各神父様にお願いしている

6月4, 11日: 鶴飼神父	7月2日: 鶴飼神父
6月18日: 上杉神父	7月9日: 上杉神父
6月25日: 保久神父	7月16, 23日: 鶴飼神父
	7月30日: 上杉神父

- ◆戸塚教会 50周年6月25日の記念ミサ&パーティ(10:00am~)の招待あり。

- ◆今後の教会の運営の方向(教区の指針; 一般論): 巡回教会にはせず、複数の小教区を同じ神父が等しくみる形になるだろう... "分教区" の考え方

- ◆その他、祝いごとなど教会で行う行事に関連した議論あり。

壮年会だより

<6月18日(日) 9名出席>

- 1) 5/27(土)9名の方々に御協力頂き、教会の庭木の剪定伐採を行ないました。本当にご苦労様でした。ただ、切り落とした枝葉が予想以上だったので、乾燥の後、運びだし易いように束ねる作業が、残ってしまいました。7月に草刈りを予定していますので、併せて実施することを申し合わせました。日程等は後日連絡致します。
- 2) 先月の、壮年会だよりに報告致しましたが、日本カトリック教会が取り組んでいる、「最貧国債務帳消し」キャンペーン運動に、壮年会から活動資金に一万円カンパ支出致しましたこと、本日の定例会で承認していただきました。
- 3) 7月の聖書朗読者：7/2(小野さん) 7/23(山田さん)
- 4) 今年の教会バザー準備委員(壮年会、婦人会各3名)選出。例年通り次の方々をお願いすることに決まりました。竹内会長、下村副会長、宮崎さん
- 5) 昨年秋頃から、体調を崩され療養を続けられていた山田さんが、快方に向かわれてお元気に成りました。壮年会よりのお見舞いに対し、お礼のご挨拶がありました。

婦人会だより

<6月18日(日) 29名出席>

- ご入院中の神父様からのプレゼント、JRの旅行お土産、十勝のカルメル会修道院クッキーを皆さんといただく。
- ◎山崎神父様霊名のお祝日(6月29日)の為、図書券をお渡りする。
 - ◎委員会報告
 - ◎神父様のお手伝いを、していただける方は、申し出てほしい。
 - ◎バザー委員会設定により婦人会のバザー委員、役員より2名選ぶ。
 - ◎戸塚教会50周年記念ミサ6月25日10時より。
 - ◎バザー迄後4ヶ月です。自主制作品2点提出で、困っていらっしゃる方へ、アドバイスあり。クマちゃんのトイレトペーパーのスペアカバー; タオル1本で出来るとても簡単な、可愛いものです。
 - ◎宣教委員報告
 - ◎ボランティア募集 しらゆりベビーホームで7月より毎木曜日募集。欠員が出ており、お手伝いのご協力を宜しくお願いします。

次回例会は7月16日(日)、次回当番はB地区です。

お知らせ

一時転出

荒木 捷子様
〒398-0002 長野県大町市大字大町字神楽町1026-2
TEL (0261)23-2268

広報 **なかわだ**
第260号

今月の予定

委員会	7月 9日
壮年会、婦人会	7月 16日
サロン	7月 9, 23日
レジオ	7月 14, 21, 28日



2000年 7月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
平成12年 7月 9日



いろいろなこと ⑤

山崎 正俊



5月18日

「かけがえのない日々」という題名。.....

突然、足がもつれた。無理強いされるという形。大病院に入院させられたよう。嫌だということではない。脳こうそく、糖尿病ということだ。おどろいたな、これは。聖水曜日にも欠席することになる。新司教館の祝別式にも行けない。一ヶ月はかかるだろうというのが医師の予想。教会委員さんたちは、私のためにすぐ教会の一部を改造せねばという話し合いを始められたそう。

一方で、私は病室を移るごとに、おかしげなことになってゆく。こいつはどうにもならぬ。大便をもらしたり、お小水をもらしたり、シビンのフタをしたままでパジャマをビショ濡れにしたり、右手だけで食事をするはめになったりして、これは驚いたり。83歳にもなったの恥ずかしい限りだとかで、なんとも言えない。何の涙か、涙もろくさえなる。栄養士さんは、その献立表には、片手で食べなければならぬような人のための注意書きなど見たこともないらしいと、愚痴ってみてもしょうがない。こんなことを月報に残すような奴など、前代未聞でもあるか。

5月20日

左手の指、かなり力強くなったような気がする。それでもまだ、片手だけの食事。トイレに急いで行きたい。9時半頃の朝食後、そのまま梅肉エキスを食べてみる。左足の股から、ひさしぶりにビリビリし始まったところでも、一瞬の差でもらさずすんだ。昨日よりもせつぱつまっていたようだったが、食後はそのままのうたた寝のせい、ぐずぐずしていたのに、助かったのだ。次の日からは、もっと気をつけよう。昨日よりは今日のほうがあぶなかったのに。失敗は嫌だからな。ほんとうに。

6月5日

夜。2時半頃。トイレから出てきたら、左手がベッドに届かず、左の足首のせい、床に右のシリモチをつけて坐ってしまった。腰が痛くて、しばらくはそのまま、隣の同室の人が看護婦室へベルを押してくださった。その手助けで、リハビリで教えられた方法で立ちあがり、ベッドのふちを廻ってやっと腰掛け、横になってのうめき声。こんな夜更けに、一人で行ったりするから、このようなことになるのだ。しかも、暗いのに電気も消したままで、何ということをするのだ。「どうもすみません」とあやまることしかできない。そのまま朝方まで眠れない。痛みをやわらげるために、それから冷しつぶをしていただいた。しかし、あまり効果はない。弱腰の部分、背骨がスリへっている、その両横(骨盤の上あたり)に痛みが残ったのでしょ。たいしたことにならなくてサイワイだった。頭でも打ったら大変なことになるところだった。これからは気を付けなさい。夜勤の方がいるのはそのためです。そうして、夜はポータブ便器でしなさいと医師の命令。同室者もなっとくするはず。看護婦もそのつもりですから、すぐにベルを押して呼んでください。なんのえんりよもいりません。今日は、レントゲンで診てみましょう。おだいじに。ということになった。

(2000. 6. 5)

ガストロ喪失記

(その一) 宣告から入院まで

竹内 広治



「湘南台」行きの電車が、いずみ野駅を発車してまもなく、左へ緩やかにカーブします。目を窓外にむけると、回りは畑が一杯に広がっていて、黒っぽい土の中から若い緑が萌え上がり、そのみずみずしい優しさが目を慰める。ほどほどの間隔をおいて小さな森が点在し、たまには赤い小さな鳥居を見つけることがある。農家の屋敷なのだろうか。目を転じ右側の遠くを眺める。ぼんやりした霞の中に、半分が溶けてしまったような丹沢の山やまを見ることがある。電車の中から眺める東の間の風景だが、私の一番好きなポイントで、四季々々変化があって楽しい。水と緑の泉区に終の棲家を構えて5年、ゆとりある優雅な暮しとは、とても言えたものではないが、それはそれとして穏やかな気持ちで、風景を眺めることの出来る今日この頃、健康を取り戻しつつある喜びと幸せを、神に感謝の毎日です。

今年も大型といわれるゴールデンウィークを迎えます。旅行だ、レジャーだ、はたまたスポーツだと明るい活発派もいれば、ゆっくりごろ寝の休養派もいて過ごし方も色々です。そのウキウキわくわくする季節が間もなく始まる頃、まるで世間に逆らうかの如く、楽しげなさんざめきに背中を向けて不貞腐れていたのが私、3年前のことでした。その訳は先頃、昔の飲み友達と久しぶり邂逅し、この次は旅行をしようと計画した矢先、忘れかけていた春先の健康診断の結果が届いて……

「ベットが空きました。いついつこれこれの物をお持ちになって、入退院受付までお越し下さい」かねてから予約していた病院からの電話である。いよいよだなどと既に覚悟はしていたものの、いざとなると気持ちが動揺して何から準備すべきかよくわからない。入院をするほどの病気をしたことが無いのが、自慢であったことがうらめしい。何回も水をくぐった寝間着では恥ずかしがるのだ、なんのかわりとブツサ言いながら買い揃えその日に備えた。

会社に勤めていた頃だから15年程昔のことになる。胃にポリープが出来ている良性だが大粒なのが気がかりとかで、内視鏡で摘出手術をうけ以後毎年実施されている健康診断は欠かさず受診、そのたびそのたび、異状なしの繰り返しです。体のあちこちが不安だらけの同僚から、健康優良児じいと陰口を叩かれても涼しい顔をして過ごし、何時の間にか定年を迎えました。15年前に癌の下地は摘み出したから、もう心配は要らないと思い、退職後の健康診断をパスしてしまうし、おまけに永年続けた癌保険も、掛金が馬鹿にならんとすることですらに解約してしまう有様です。これらがのちに、後悔先に立たず、臍を噛んで悔しがる結果になろうとはお釈迦様でも気がつかない事でした。

翌年、案内が有り従来とは違う機関での健康診断を受診した。退職後変化のない退屈な生活だったので、とても新鮮な感じで良い結果を期待していた処へ、再診続けて精密検査と、思いがけない展開となりすっかり面食らってしまった。

「このままではいけない。早く処置しなければ」紹介された病院の医師はフィルムを光源に翳しながら迫る様に語りかける。事の重大さに気がつかないのかといわんばかりである。何か所か他の病院に当たっても同じ答えであった。結局、治療中近い処が便利と言う訳で、県立がんセンターにお世話になる事にした。

入院して手術に備えての検査が終わり、外泊のため家路を急ぐ。電車の中からいつもの風景を、今日は虚ろな気持ちで眺める。優しい心で眺められる日は何時の日か、もしかして今日が見取めか、不覚にも、胸に熱い物がこみあげてきた。

(続く)

ミサ当番表 (2000年7, 8月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
7/2	年間第十三主日	壮年会	美底	8/6	年間第十八主日	壮年会	岩淵
7/9	年間第十四主日	青年会	岩淵	8/13	年間第十九主日	青年会	森田
7/16	年間第十五主日	婦人会B地区	森田	8/20	年間第二十主日	婦人会C地区	保科
7/23	年間第十六主日	壮年会	保科	8/27	年間第二十一主日	壮年会	美底
7/30	年間第十七主日	婦人会B地区	美底				

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏:TEL 802-6258)迄お申し出下さい。

この頃思うこと

東原 秀夫

愚生も運動が好きで、下手の横好き。気軽にあれこれやってきたが、歳には勝てず、自分で運動をするといえば、時折の遊びゴルフくらいで、その他はせいぜいTV観戦の程度である。

ところが、折角見応えのある競技を台無しにしてしまうのが、サポーターといわれる応援者の態度。最良が勝てば周囲を憚ることなく歓喜雀躍、狂喜乱舞。一方敗者側は、消沈して早々に退散するならまだしも、グラウンドにメガホンを投げ入れる、土俵に座布団を投げる、果ては機材を壊す、放火(さすがこれは日本では未だ見ぬが)する等々。折角の好試合も後味の悪いものになってしまう。それがプロの競技であれば、応援する側もプロらしくありたいものである。

淫乱、殺伐とした事件の多い今日、そんな中で若い人達が澆刺としてスポーツに汗を流して勝負に青春を燃やす姿は、美しく、また望ましいことであるが、更にもう一つ、選手側にも応援者側にも、敗者の心情を少しでも思いやる心が必要なのではないだろうか。以前は中継時間の関係もあるためか、TVで勝者は大寫しされても、敗者は顧みられずに終わったが、最近では駅伝などでも最後尾を力走するランナーの姿も映されるようになり、また六大学野球の試合後のエールの交換や、高校野球の真剣なプレー、整然とした応援を見ていると、勝敗は論外にして清々しい気持ちにさせられる。

嘗て道場に通っていた頃、恩師より「技」と共に剣を志す者の忘れてはならない心得として次の三つを厳しく教えられた。即ち、(1)礼、(2)勇気と努力、(3)惻隱の心である。ご承知の通り、「惻隱の心」とは孟子の教えの「思いやりの心」で、他人の苦しみ、悲しみを憐れみ悼む心であるが、わが師は、「勝敗には当然勝者と敗者が生じるが、戦うからには必ず勝つ信念で臨まねばならぬ。しかし、勝ったとて奢ることなく、敗者の心情を思いやる心が欠けては真の勝者とはいえず。万一敗れても、己の力を出し切った結果であれば、決して卑屈になるな」と。

他人の苦しみや悲しみを思いやることは、言うは易く、真に自分の心のものであることは容易にできるものではない。嘗て師から教えられた「惻隱の心」。それは、「主」が教えられる「愛」への道標(みちしるべ)であったと思っている。



環境コーナー 自然エネルギーについて

〈朝日新聞より抜粋〉

町田 保子

自然エネルギーが注目されている。超党派の国会議員が風力や太陽光などを使った「発電促進法案」をまとめており、早期の国会提出をめざしている。

自然エネルギーとは、太陽光、風力、ダムを使わない小規模の水力、木くず、わら、~~家畜の排泄物~~といったバイオマス(生物資源)をあげている。地下深くのマグマから伝わる地熱も仲間に入ることが多い。キーワードは、まず「枯渇しない」ことだ。

人類はずっと自然からエネルギーを得てきた。太陽光や薪炭など大昔からあるエネルギー源だけではない。いま主要な石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料や原子力燃料に使うウランも天然資源であることに変わりはない。しかし、化石燃料やウランは資源に限りがある。使い続ければいつかなくなる。これに対し、促進法案があげるエネルギー源は枯渇しないものばかりだ。

バイオマスも、使った後にきちんと植林などすれば比較的短期間で資源を再生できる。「再生可能エネルギー」という言葉とほぼ同じ意味だ。二つ目のキーワードは、「環境にやさしい」。化石燃料を燃やせば、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素が出る。原子力は取り扱いがやっかいな放射性廃棄物が残る。大規模水力発電は、ダム建設で周辺の生態系が破壊されかねない。

バイオマスは、太陽光や風力と違い、利用する場所を選ばないし、貯蔵もできる便利な資源だ。積極的に利用している国が多い。その代表がスウェーデンだ。ドイツは風力発電で世界一の風力大国になっている。そして、ドイツは原子力発電所の新設をやめ、数年をかけて全廃することを発表した。

日本の現状は、太陽光発電で世界のトップレベルだ。更に先の京都会議で新エネルギー(自然エネルギーより広い概念)の供給量を増やす目標を掲げた。工場などでの廃熱利用や、ゴミを燃やす廃棄物発電、電気自動車なども含む……

どの国も原発及び電力事情について複雑な問題を抱えているのが現状のようだ。